

生協ゆうゆう村

【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 □障がい者施設 □子ども施設 ■住宅 ○
〔運営主体〕 □市区町村 ■法人 □NPO □個人 〔補助金〕 □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省 ○
〔建物形式〕 □1棟単体型 ■複数棟集合型 □団地型 〔建物状況〕 ■新築 □増築 □改修 □一部改修 □既存
〔対象者〕 ■高齢者 □障がい者 □子ども □ファミリー ■多世代



写真1. ゆうゆう村祭りの様子

生協ゆうゆう村は、かなめ病院を中心として町内に色々な介護施設がまちなかにあり、定期的に地域住民を交えたゆうゆう村祭り等のイベントを行っている。一角にある多世代共生住宅のわいわい長屋は、1人暮らしが不安な方はもちろん、若い世代まで20代～90代が暮らしており、スタッフが常駐しているため安心だ。

※現在とは異なる部分もあります

■施設概要

所在地：愛知県名古屋南区南部

施設種別：共同住宅

高齢者向け施設 など

運営主体：南医療生活協同組合

- ・グループホーム「みんなのざいしょ」1ユニット9名
- ・小規模多機能ホーム「みんなのざいしょ」登録24名
通いが1日12人、泊まり5人
- ・みなみ訪問看護ステーション
- ・ヘルパーステーションかなめ 誰でも
- ・グループホーム「いりゃあせ」2ユニット14名
- ・小規模多機能ホーム「いりゃあせ」登録12名
通いが1日6名、泊まり3人
- ・ショートステイ「きままでんぐ苑」48床
- ・デイサービス「きままでんぐ苑」
- ・多世代交流館「がやが家」
- ・多世代共生住宅「わいわい長屋」27室
- ・助け合い事業「おかげさまみなみ」
- ・まちのたまりば「こまさわ邸」

■経緯

自由の「ゆう」と遊びの「ゆう」、ゆったりしたなどいろいろな意味に解釈できる名前をつけ、「保健・医療・介護の安心ネットワークを地域にひろげ、居場所、役割、ふ



写真2. 周辺状況 (googlemapより)

生協ゆうゆう村の施設は、歩いて2、3分の場所に点在し、地域に馴染んでいる。



写真3. わいわい長屋の外観

正面の入口は黒に近いこげ茶色の引き戸になっており、左側の支柱には木版の看板が掛けられている。



写真6. 共有スペース

室内の壁には掃き出し窓が設置されている。それぞれに障子が付いており、どこことなく和の雰囲気を醸し出している。



写真7. 食堂

無垢のフローリングに洋風のダイニングテーブルが並んでいる。扉や奥にある座敷など和のテイストを取り入れている。



写真8. 共有スペース

高い位置に窓を配置した明るいスペース。ダイニングセットやソファ、カレンダーや壁掛けの時計など、自宅で過ごすような感覚で利用できる。



写真9. 居室

無垢のフローリングに天井や壁にも木を多用したナチュラル感のある部屋。エアコン完備で、簡単な調理ができるキッチンが設置されている。



写真10. 檜風呂

檜の香りが心地よいバスタイムへと導いてくれる檜風呂がある。



写真11. 庭の休憩スペース

天気の良い日には庭の休憩スペースで一息できる。入居者同士の会話も弾む。

参考文献

- 1) 南医療生活協同組合「生協ゆうゆう村」〈http://www.minami.or.jp/network/welfare/village/yuuyu/index.html〉2018.1.1 参照
- 2) みんなの介護「多世代共生住宅 わいわい長屋」〈https://www.minnanokaigo.com/facility/000-2255880408/〉2018.1.1参照
- 3) 南医療生活協同組合 ゆうゆう村通信「ゆうゆう村祭り (9月23日)」〈http://yuyu-minami.jugem.jp/?eid=68〉2018.1.1 参照



写真4. 生協ゆうゆう村 10周年祭の広告
生協ゆうゆう村では定期的に地域住民を呼び込むイベントを行っている。



写真5. わいわい名古屋の玄関
懐かしい雰囲気土間の玄関である。古き良き日本家屋の当施設でゆったりとした毎日を過ごせる。

れあいのある村づくりを目指してつくられたものである。おもてなし・文化・交流会館の「がやが家」、サービスとショートステイの「きままでんぐ苑」、多世代共生住宅の「わいわい長屋」、サービスとグループホームの「いりゃあせ」が、歩いて2,3分以内の場所に点在している。この村は、2004年2月から、組合員・職員の代表からなる「百人会議」を開催し、「自分たちのまちにはどんな施設が必要で、どうしたら実現できるかと、知恵を出し合った結果である。2005年5月に「いりゃあせ」、9月に「きままでんぐ苑」と「がやが家」がオープンし、「わいわい長屋」が2006年11月に完成し、生協ゆうゆう村の総仕上げとなった。

■多世代共生住宅「わいわい長屋」

南医療生活協同組合が運営する「ゆうゆう村」の一角にある『わいわい長屋』は世代を超えた方が暮らす安らぎの住まいである。和風建築の建物と同じ敷地にはデイサービスやショートステイなどの介護保険サービスをご提供する事業所があり、介護ニーズのある方も気軽にサービスを利用できるという安心感がある。館内にもスタッフが常駐し、夜間も含めた見守りをしているため、24時間安心だ。3階建て27室、一人暮らしが不安な方はもちろん、若い世代まで20代～90代が暮らしている。

1人暮らしの寂しさを感じることなく生活ができる『わいわい長屋』は共用部分に居心地のいいリビングや共同キッチンがあり気軽に他の入居者と交流できる住まいである。隣の入居者の顔がすぐに分かるため、近所づきあいの良さも感じられる。玄関近くには事務室があり、1日中誰かが常駐している。また、多世代が暮らし、ヘルパーや訪問看護師なども出入りして暮らしている。交流会館『がやが家』も併設しており、楽しい毎日を彩る。共用キッチンでおかずを作って入居者が持ち寄り、食事を囲むこともあり、人と人とのつながりの温かさを感じられる。

1人1人が自由な暮らしを気兼ねなく楽しめるよう、木を多用した温かみのある個室をプライベート空間として用意している。キッチンのついた部屋もあり、希望により自炊をすることも可能だ。また、部屋内にはナースコールも設置しており、スタッフといつもつながる安心がある。建物の玄関スペースは土間となっているなどどこか懐かしい気持ちにさせるデザインに全館通じて統一されている。